



123

門名 3  
蹄 37  
卷 1

六十六州人國記

日本各國風土

圖說

攝津書房

星文堂



國記



往昔寂明寺禪公。諸國戎啓行  
して。有司の伏誦を用。下民此究  
新を通とせぬ。政教の助と成。い時  
氏有れば。情を親察し。人國記成。此  
も我。今は卷を披。昔年の風俗。恰  
と画出さる。如し。是亦民を化し。俗成  
成の一助あり。人蓋人情。八國の風  
水も因れり。い編を人國と題せ。人  
園去の意も。志は示其風土の形。猪

を志とされハ。も因不城并とて。か  
故山川の梗概を註し。小國城後。画  
聊大綱を記。民志は。今政化寓内  
及ひ。風俗の俗。畫し。往昔の風土。何  
ら。民悉く善。向ひ。轉壤。倉哺  
て。各其生を。おび。我。



人國記卷之上編目

畿内五國

山城一 大和三 河内四 和泉五

攝津六

東海道十五國

伊賀七 伊勢八 志摩十 尾張十一

參河十三 遠江十四 駿河十六 甲斐十七

伊豆十九 相模二十 武藏廿一 安房廿三

上總廿四 下總廿五 常陸廿六

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



東山道八國

近江 廿九

美濃 三十

飛騨 卅二

信濃 卅三

上野 卅六

下野 卅八

陸奥 卅九

出羽 四十六

北陸道七國

若狹 四十九

越前 五十

加賀 五十二

能登 五十二

越中 五十四

越後 五十五

佐渡 五十八

人國記卷之上

畿内五國

山城

當國の風俗ハ男女ともよ。其詞自法濁分を若くして  
 たとハ流水の滞りともくして。またよき如し。風俗  
 は其取の水去に去るふまのまを。此國ハ水の際こと  
 他必よまらぶことあり。故よ人の層滑なる。婦人の容色  
 およよ尋常なる。然れとも。武士の風儀ハ柔容て不  
 直されども。婦人脱菟の勇とらハ強にかまむへん。

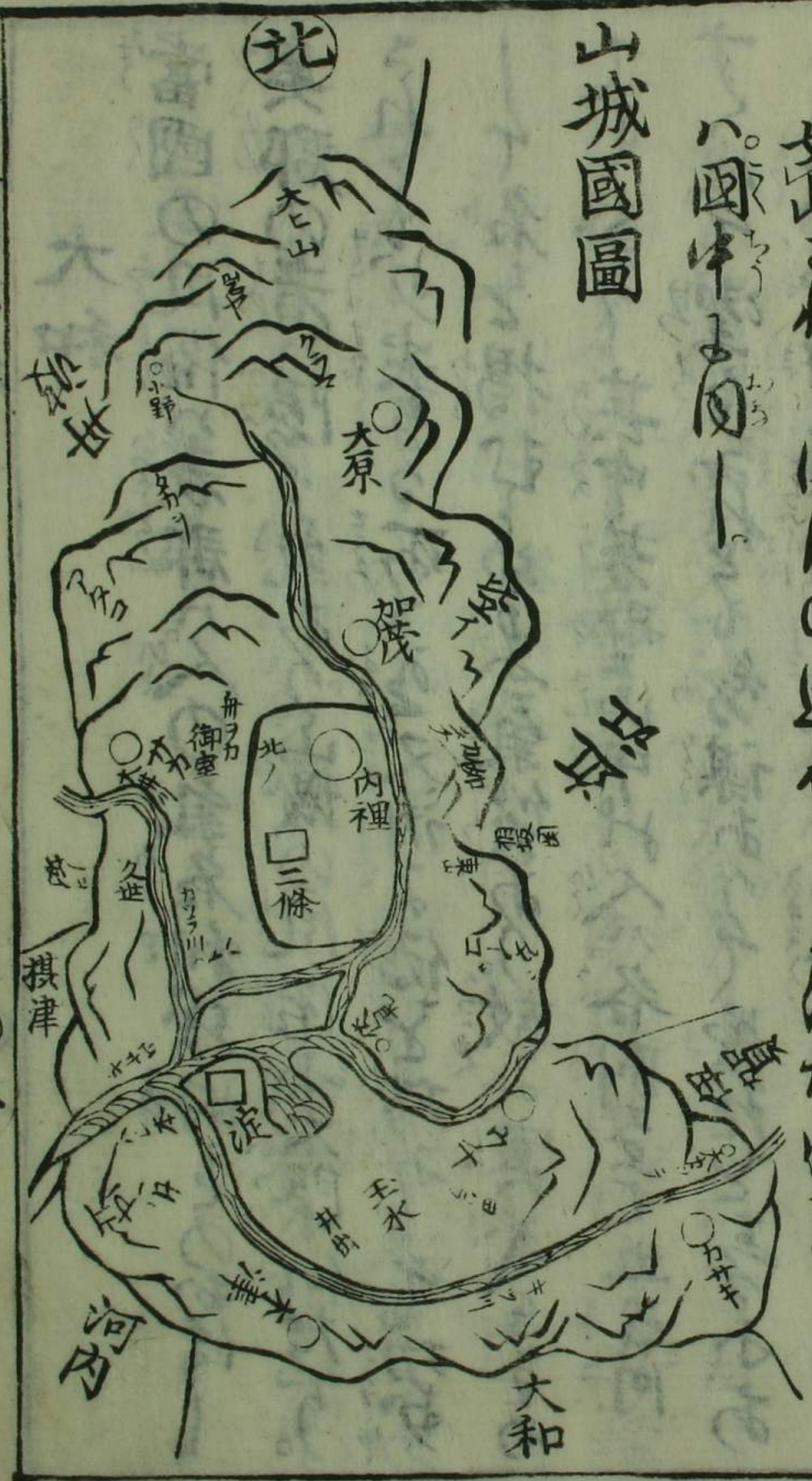


古来王城のゆたつたる故にそのつらふ心ゆるまうて  
 不念ふ城に奢美守す。實義少くあまらる。これ亦依  
 人と交ふ肯こと易く又約を要りともやすし。輕  
 唐の意なるゆへとそ

按小南の三方山園て南水田を開南條一て  
 中に平地あり則平安の都ありて也神相應の化  
 日時の寒暑各正氣とてはる亦也故人の風  
 俗が書に所祝の如く生質自然と申ふとほまう  
 然とも一國の内も南北東西のさかちりありて

就中北山中の心狭朴きる是は遠の舌育る  
 如此されとも國風の通れさるる後凡懦弱あり  
 一國中も一

山城國圖





大和

當國の凡俗は表郡人の氣名利欲好まの好し。  
 奥郡の者ハ陽る氣あり。山嶽の風俗ハ大際似たり。  
 されども少夾あるあり。又洞は偽を巧みして。功が  
 して。名を掲むと好み。氣盛あり。故に實義をさしめ  
 てまぐちあり。其中芳聖山中此人ハ各別する。且表内  
 すくけて潔白なれども。智謀ありて。氣理をさす。小あ  
 らぬ。唯邪僻に不陷者。良と不好のまありと云。  
 按よ。蜀はハる。南山あり。中平比と云。并く。中平比

所謂表郡と云。此平地の所。素良の故。素良の意  
 と云。南ハ大山霞小。た峯と云。其山を山  
 あり。此四人皇身一。神衣天皇と云。りて都をた  
 られ。り。代々の都と云。なり。ゆ。た。四倍其規。積  
 又。習て。自然と。名功の。名。實あり。本。書に。説。く。と  
 芳聖と。院。を。どの。山中。凡俗。各。あり。卒。直。あり。巴  
 時。の。寒。暑。も。表。郡。ハ。山。嶽。あり。も。於。温。和。あり。山。中  
 是。亦。各。別。あり。

大和國

人臣言卷上

〇二







用て海風を入故に温和にして風俗柔なり。冬も暑も暖氣おほし。但本書に西説の下郡人の氣且あると云いおのつて山中の郡也橋云の如き人も出

### 河内國圖



### 和泉

當國の風俗至て實義なり。之故うつくしきれども。塵意ハかつて用ひられざるなり。たとへば利なき利刀のごとく。殊不出家町人の風俗なり。利心おほきゆ。人の賊と奪ふり。坂東の風此人を殺害して。人々を救ふ。利なき人によりてよく解

て。故に必至人ともれ死お祈なりと云。按に蜀國の東高而北海濱なり。國中平原おほし。是は河内と同じ。其の不便不實の質ハ海濱



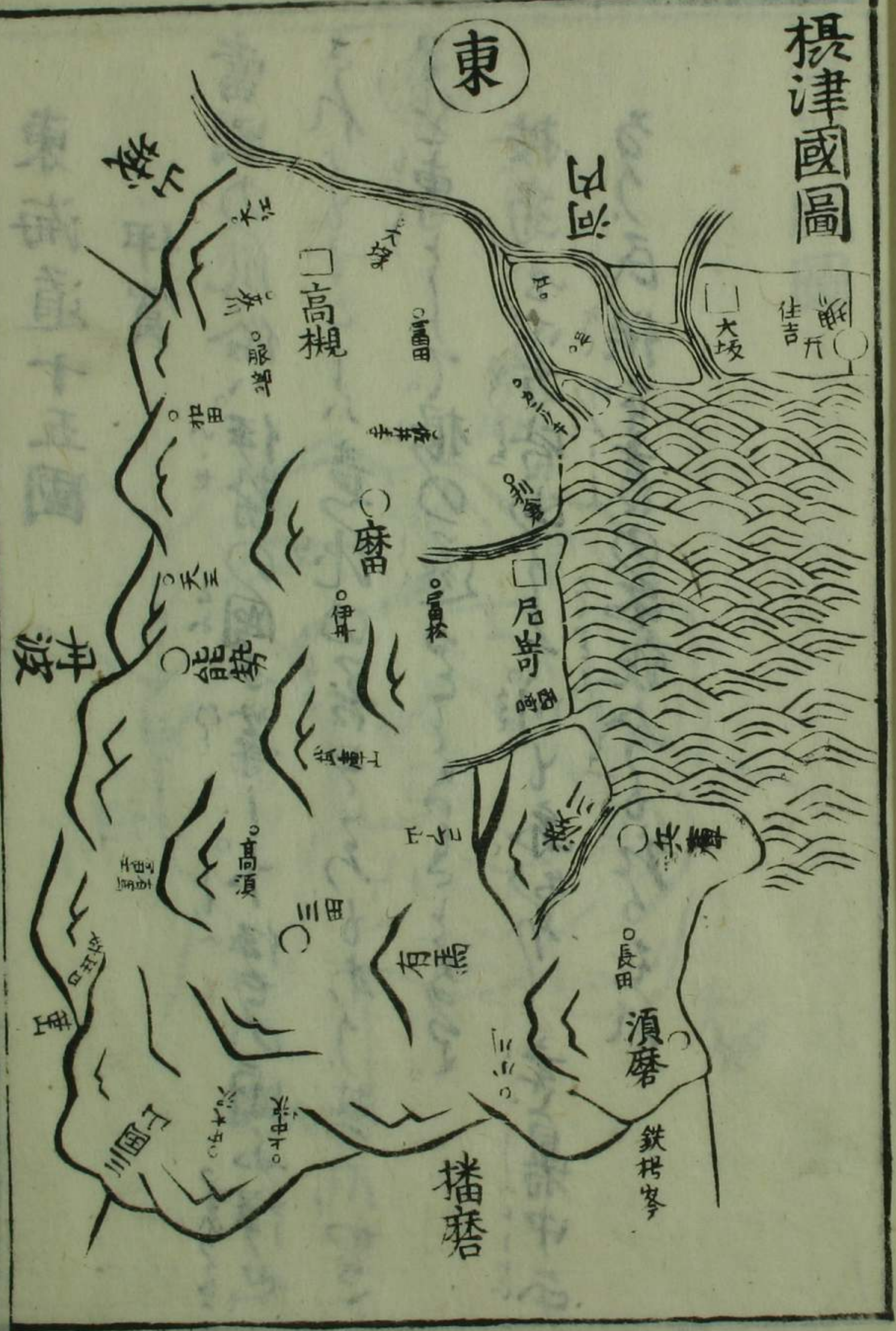




あるべしとそ。

按に常國ハ南ノ海濱とて北ハ皆山なり。新波  
 津ハ古より入津集會の地なり。一時のき自者暖か  
 りと國あり。本書よ不況の民俗これ皆海濱諸國  
 の故なり。北郡と。能辨郡。有馬郡のりあり。是  
 等ハ丹波の國にけきて凡俗も海邊と別あり  
 されども國風ハまねかれど諸國運送の便を醸  
 其外賣買の利ゆと。舟一のりふ。下民ハとちか  
 とハか風なり

攝津國圖



東國記













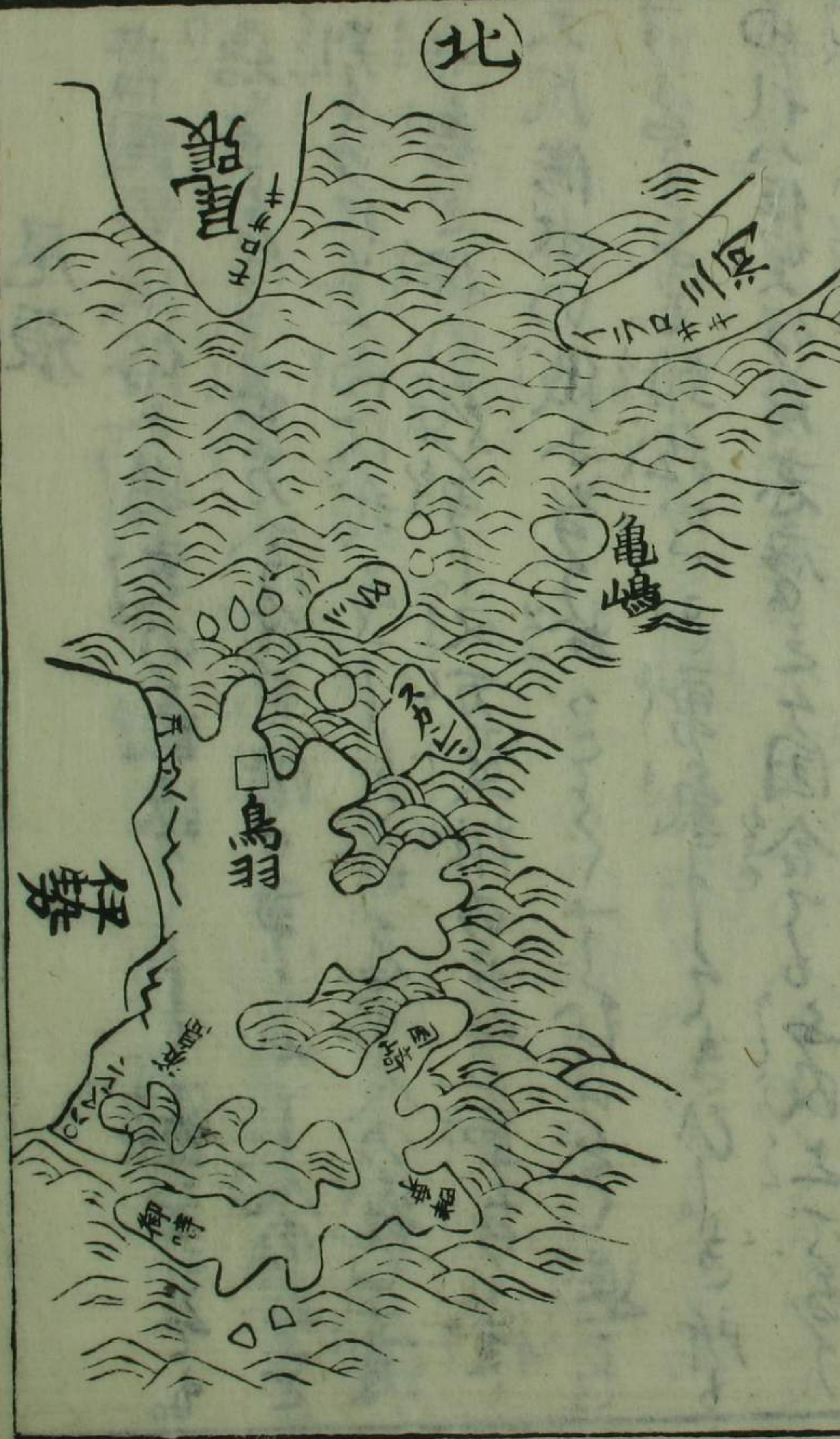


志摩

當国の風俗。大槩伊賀伊勢にかゝる変あり

按に。尚四八伊勢の國碯なり。善志菅嶋等ハ  
海中の嶋あり。所々いづれも。比法なきも。一  
回あり。いづれの時も。浪水も。岩も  
大方海より。今この國地へ伊勢の地内よ  
り。尚國へ。此の地へ。風俗伊  
勢にかゝる事。實に。寒暑を。暖氣  
る國あり。

志摩手國圖





尾張

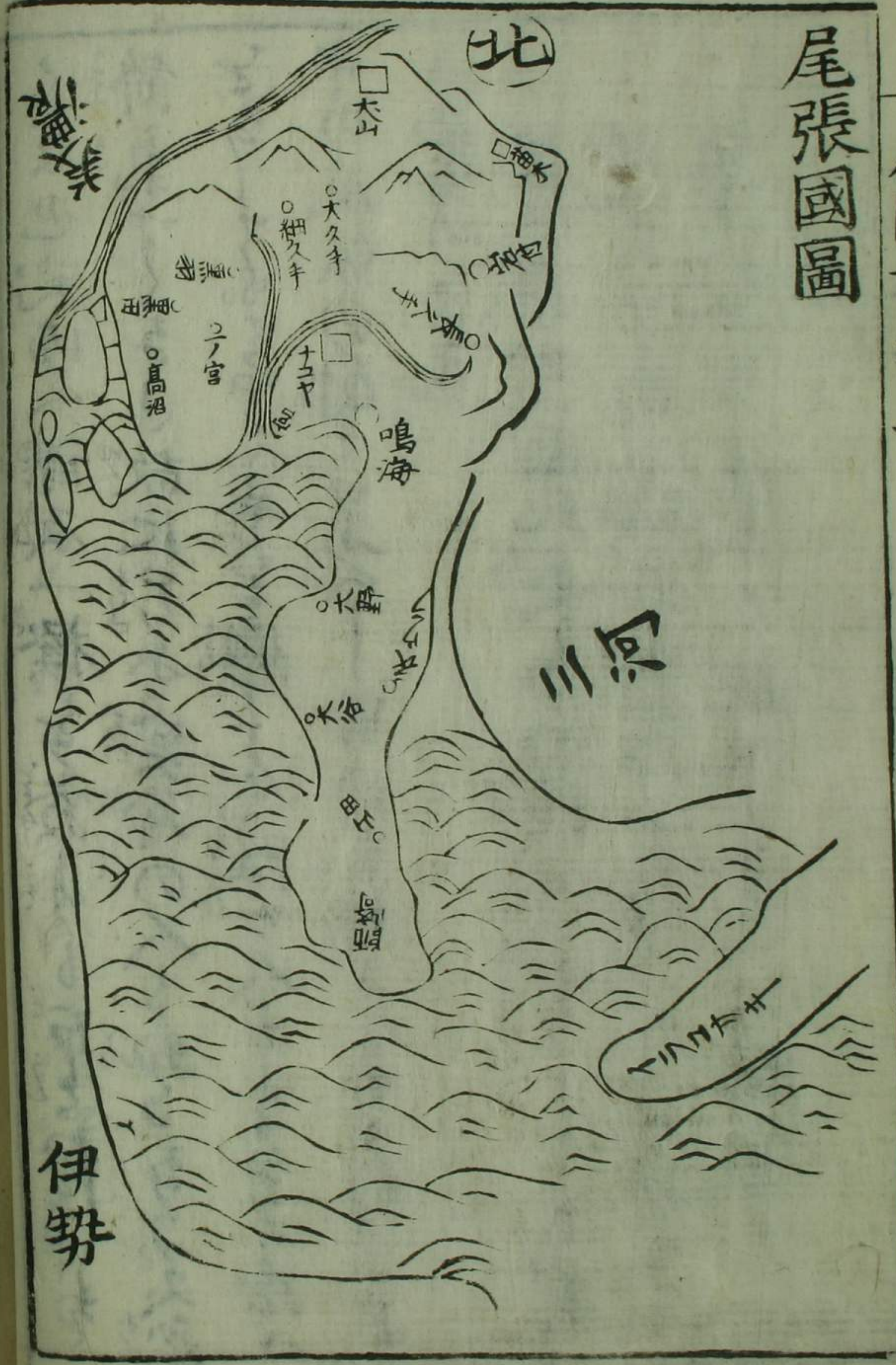
當國の風俗ハ進歩の氣流よくして。善をこそむ。惡をこそむ。其方への徳を事とす。人の善と徳を辨じらば。一向に我をこそむとかならず。人の善と徳を我を掩の勢也。又万変根のそらる事なく。徳は大風洪水の俄ふちるかごとく。すむらひなく退す。すくなくも。雖然かたき勇氣よく。きびりき所もあれハ。倭國伊勢志摩之ヶ國合ても及上てあり。古より秀者もみりと見へたり。下劣の心底。徳の

くな也。夫ゆへ謀反一揆を發するも古とおぼしき飾氣すくまき。故に凡そ實義の人も出るあり。又徳を重んずるも。是を徳として。改る人もある。然ハ中の風俗の同とすべし。男の言諾さじやうに。よきありとす。

按よ尚玉ハ南北長。東西狭。北ハ山ありて。一國多陰地なり。南ハ海濱相法。多。暖氣あり。國あり。國民均ちるあり。風俗を善に詳あり。



尾張國圖



参河

當國の風俗氣勝れて人の長十ニ七八のひす其  
 言語いやけまじり。實義おほし。其を約して遂さ  
 りのあり。親子の間に互にまじり。虚談をまじり  
 をまじり。偏屈をまじり。我をまじり。人の言を  
 ばいれ。これにまじり。會をす。もの色。聞これ  
 ある。武士の風義善おほく。女をけるまじり。  
 恥をまじり。

接み南。北ハ山。南ハ海濱あり。其境度平



原曠野おほし。寒暑温和し。人の心も寛  
 大なる。尚ふも北山中ハ少異るれと。凡俗本  
 に不説たりと云

参河國圖

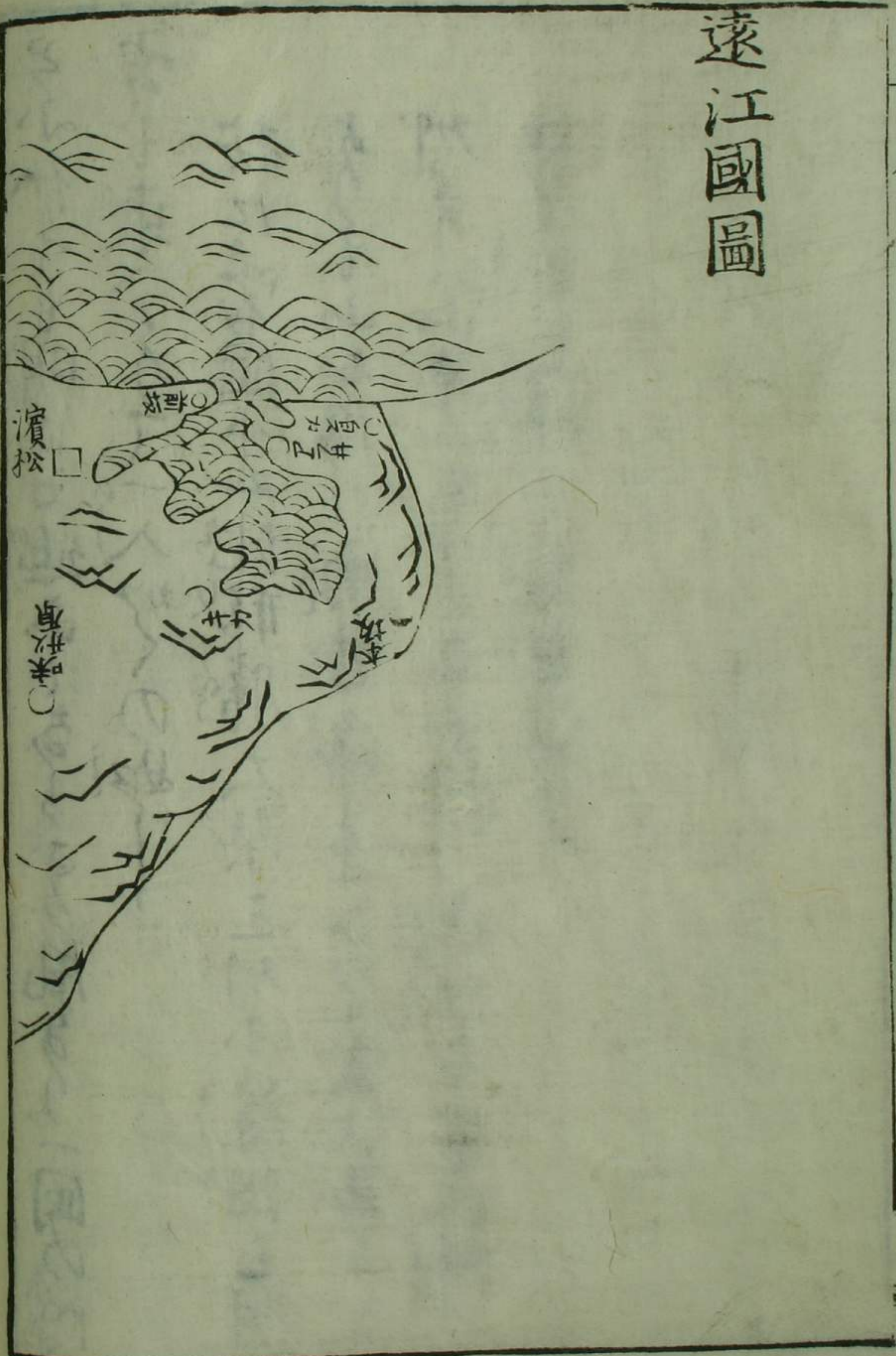








遠江國圖





### 駿河

當國の風俗ハ遠州と替人の氣狹て而實寡氣  
 せむ紀久ゆ人よ伸意女。乳の属する時ハ取あどすこ  
 とをあすすしく。命を終るものあり故ハ其氣こ  
 くましくされとも常ニ詭氣質あるものハ多。義理を  
 思て身と立ものい少。總て威嚴おほく互に人をい  
 やしめおとん更に志まるとなり風なりとて

按よ。尚玉も亦北ハ山。南ハ海。最山多。富士山を  
 負て。大河おや。宅畧中。正しく。温暖の氣あり

### 駿河國圖





甲斐

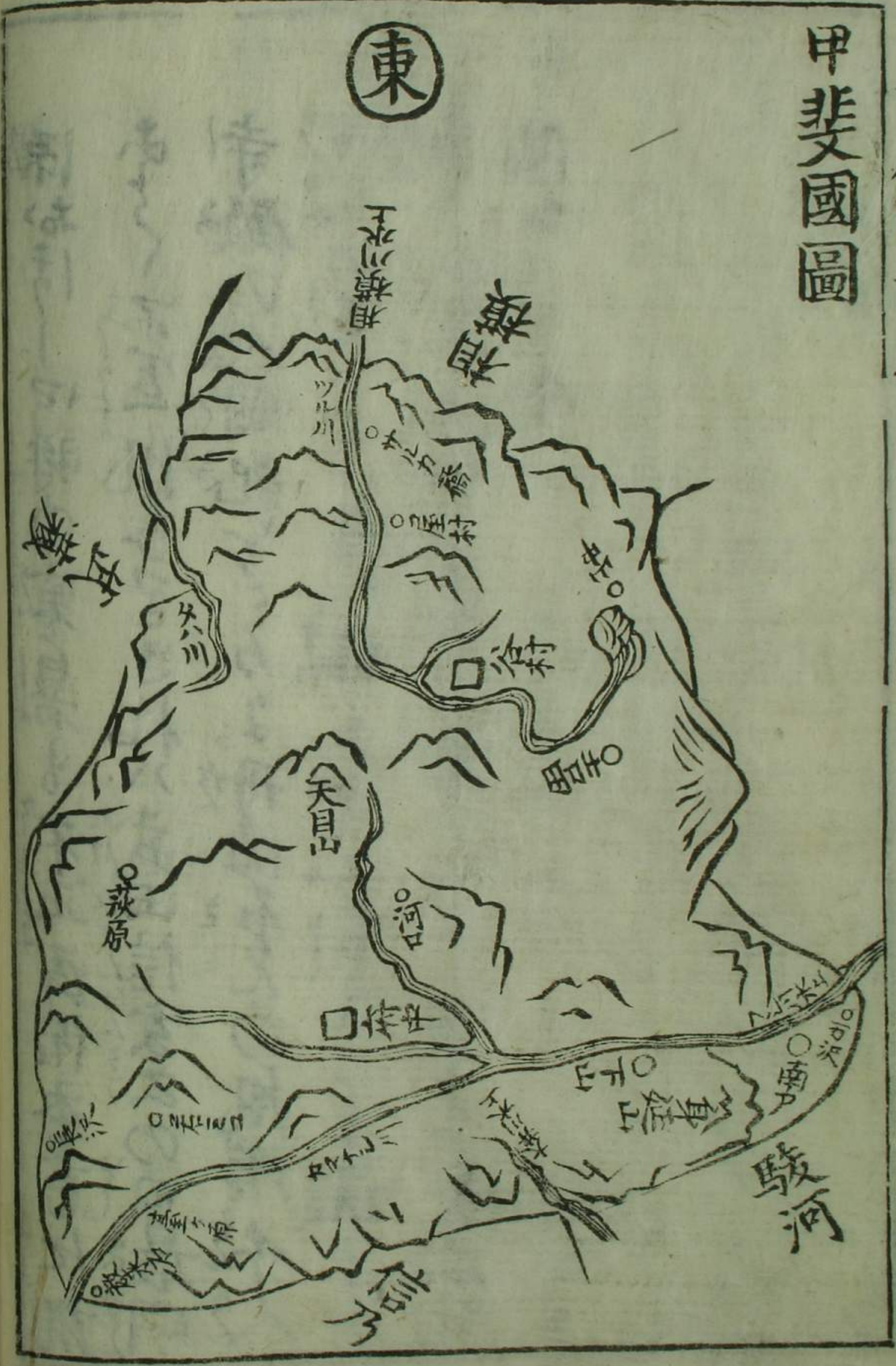
當國の風俗ハ人の氣尖りて。不直死りを不厭  
 傍若無人の憂おほし。上ハ下をくろめ。下亦上を不  
 殺下騰に少科ありても。主人甚罰之。主人罪道下  
 とはくハ。大射ハ。速及之。小才ハ。怨を合て。禍を杯  
 ふ。然て。道理を不辨なる。志れども。甚強勇ありて。  
 死と不願。戰場のてくる。きけなき。りとも。

接に當ふハ。偏北の山中なる。殊ニ南小留山霞  
 て。一帯ハ。氣のこもれる。あり。む山深ク。ゆ人。水

源おほし。口時の寒暑も。不正民俗。本書に説  
 おく。不直。風をいさされハ。武田信玄云の曰。最明  
 寺殿の人。日記と。り。丹後石見の風俗。千人  
 万人の。回。も。善人。稀。も。て。石見。あり。と。説。  
 余り。領。ハ。甲。列。の。民。も。是。不。か。ら。る。事。あり。不。直  
 風。あり。と。そ。



甲斐國圖



伊豆

當國の風俗ハ強中の強小しく。氣を豪ととる都て清なり。去るれも。一死の氣とて。少の遠めあて。又親怨をも重むるものごとく。

按、尙國ハ駿河と相模の間に海中、南へ指し出たりあり。三方皆海岸あり。中ハ山谷あり。氣暑も暖なりあり。民俗偏倭なりゆに。一とどまり。大湾ニ完結。其外港多。并ハ大湾の如、伊豆に属す。凡依各異なり。



# 伊豆國圖



## 相模

當國の風俗ハ豆州まめしゅうに似たるにといふも人の氣稔きね愛あい  
 易やすき所ところあり。業わざハ縁ゆかりを承うけたまへ。親おやを孝たかく。しるまのしるま  
 取と一人ひとりあり。時ときを不得いざな勢いきさありぬれハ。をるをる。其人そのひとの  
 非ひを揚あげ。滄くら。權柄けんびあり人ひとをハ。此こゝをを掩おほて。祿ろく譽え  
 色いろ食くを好このむ。業わざ唯ただ小こままうう事ことあり。とおとつつ。めめハ  
 凡およ十じゅう人にんハ九く人にんハ。夫その故ゆゑに。王おう被ひ友とものまうちあり。く  
 たゞ其その勢いきさによりて。昨日きのうままく。肩かたをあぐぐ。者ものを  
 も。今いま白しろハまままと。仰あやままハ。被ひ友とものまうちあり。被ひ友とものまうちあり。



と取らるの風あり。智あれども却て智に迷ひ。養  
 と智に似て。養ありありとそ。

梅に南風ハ山を負海を抱。風去異あり故  
 を暑も亦別あり鎌倉の如き海濱ハ新し  
 平正なり。管根三浦の山中ハをいほ。民俗大  
 底在善の玉況不爽。似海濱の如くハ海風亦  
 おほい

相模國圖













### 安房

當國の風俗ハ人の氣尖すりとなり。交まじ壁かべハ及およびの如ごとし。常つね小頑こごんくして。人と和なごする者寡すくなく。男女おとこめともに死しと恐おそれ。假令かりにシ氣會きかいも互たがひに齒はをぬき。て。万ばんがし。思おもふ。天あまをりらと。あし。其その中なかにも。亦また能あたらざる者ものあり。志こころも。如ごとし。其その言ことば。徳とくを。卑ひ劣れつなれ。生なまむ。道みち。理ことわり。あれ。ハ。一ひと旦たんハ。尖すりと。小こ。武ぶ士しハ。其その程ほどの。惡わるし。と。あり。衆しゆ工こう。高たか。も。それ。に。力ちから。是こゝ。と。あり。ま。れ。も。民たみの。貨か。亦また。希まれ。あり。只ただ。生なまむ。の。氣き。に。任まか。せ。て。手て。強つよ。く。隨た。法はふ。落おち。る。と。り。あ。る。風かぜ。

### 安房國圖



安房國圖

三十三



上總

當國の風俗ハ大縣安房あひら四小異よこちがり多シ。然しかラ此こゝの風ハ別べつて氣偏きへん屬じゆくあり。庶民あひらの所作しよさくハ常つね小凶賊せうごんざく夜討ようちうとぞなりて。西にしにこゝり人ハ希まれなり。されども氏勇うぢゆうに取とてハ其そのけり。東ひがし二番にばんといさぐらぐらと。按おしよ安房上總あひらかみ西にしハ海中かいちゆう小枝せうし玉たま東ひがしハ大洋たいやう。西にしハ江かう海かい中ちゆう又また山やまあり。津つ波なの亦またあり。寒暑かんしよ者もの大底たいぢ武藏むさし類るいを重おも民俗みんぷく本もと書かきに盡つくたり。但たゞ江都かうと之の向むかへる所ところ見みに惣おんて人々たがひ亢たかの意いあり。



上總國圖



下總

當國の風俗ハ上總ウラタマノ同ドウ。但結城ユキノ人ハ健タカシチル生質シマレス。國中チクニニ勝マカル方カタノ風也カゼナリト云イハル。

按。南國ミナミノクニト山ヤマチヨク。又江エノ水ミヅチヨク。意イノ器キト上總ウラタマノ同ドウ。

下總國圖





常陸

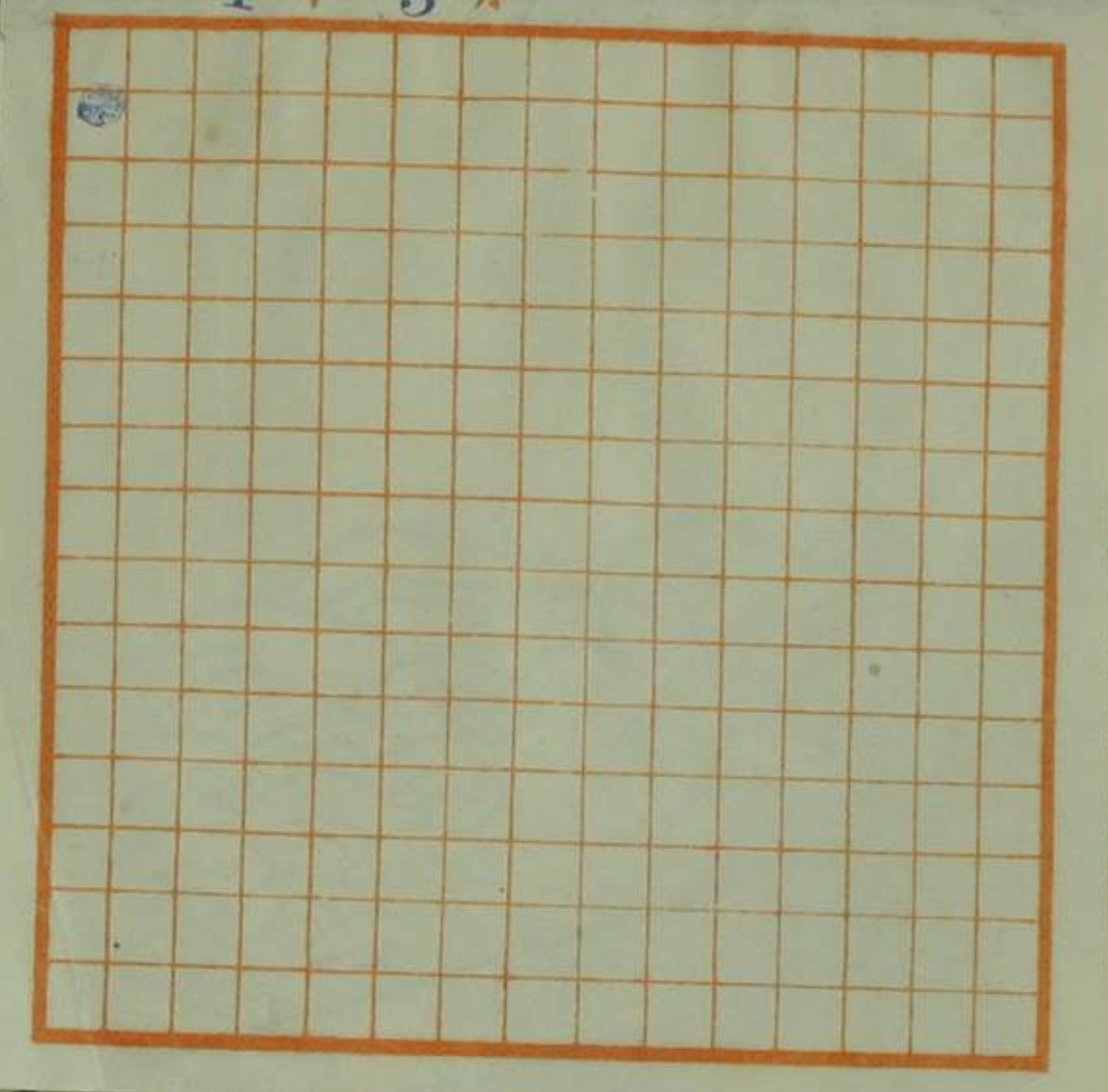
當國の風俗ハ如此の不可成而も希まじ。盜賊多し  
 て。夜討推込。辻切号を好。其罪狀て刑不行なり。以  
 ども恥辱とも不思。却病を以て不死と云。子孫是と  
 稱漢一々。盜賊此不道と云々。武勇不知。只膽と云  
 不生れつきたるものなり。武士の風も。是に不異し。一  
 道理も知ら人少。縦道理を知りて。我意に似せ  
 批りあふ。理も似たる。理も似たる。義も似たる。義も  
 義も似たる。世の唱も。曰。常陸國今人なり。能

ども。昨日の味方。今日の敵と云ふ如。風多りと云  
 按に。常陸東一偏ハ。海洋なり。西ハ山なり。是  
 四年にさし入て。雨の風も。各異なり。む大國の如  
 に。山中海濱。南北の境地。寒暑の如く。民  
 俗。本表詳あり。





4年3月



常陸國圖





常陸國圖





